優秀賞

私の生きてきた「道」

立命館守山高等学校　3年　山田 夏葵

自分の意にそぐわない道であっても、進んだ先で思わぬ出会いや発見がある。小学六年生から中学校を卒業するまでの間、ブラジルで生活をして、こう考えるようになった。父の仕事の関係で決まったブラジル行き。最初は全く行きたいと思えず、五年間通った小学校で卒業したいと思っていた。そんな時、松下幸之助さんの「山は西からも東からでも登れる。自分が方向を変えれば、新しい道はいくらでも開ける。」という言葉を、小学五年生の時の担任の先生が教えてくれた。この言葉を聞いて、自分の中でブラジルへ行くことに対する考え方が、ポジティブな方向に変わった。新しい土地で、新しい環境で生活をすれば、自分の財産になるような経験ができるのではないかと考えられるようになったのだ。こうしてブラジルへ行き、たくさんの人と出会い、一生忘れられない思い出を数多くつくることができた。今ふり返ってみると、あの時の言葉に背中を押され、ブラジルで四年間生活した経験は、まちがいなく私にとって有意義なものであったと思う。なかでも、異なる文化を持つ人と関わる機会を多く持てたことは、自分にとって非常にメリットの多いことであった。日本で生活していると、ある程度同じ文化や考え方の下生活している人が多いので、自分の考え方に偏りがあることに気がつきにくい。しかし、ブラジルでは何もかもが日本と違っていて、全てのものがとても新鮮に目に映り、関わる全ての人々から新しい気づきを得ることができた。自分の住み慣れた居心地の良い場所から一歩外に踏み出す勇気を持つことで、こんなにも自分の人生を変えるような出来事に遭遇できるとは思ってもみなかった。異なる文化を受け入れられる力、多様な視点から物事を捉えられる力を養うことができ、これからの人生で大切な事を学べたと思う。

これから先何が起こるか分からないが、自分が選択した道を精一杯歩んでいきたい。